

羽村市史編さんだより

平成28年4月

第5号

伸びゆくはむら

特集

中世 三田氏と羽村の関係を探る

- ① News
- ③ 部会の手帖
- ⑤ 市史編さんの足あと
- ⑤ コラム「ちっとんべえ」

2

第4回羽村市史編さん委員会を開催

2月8日（月）に、市役所で、第4回羽村市史編さん委員会を行いました。会議では、平成27年度の事業の実績や平成28年度の事業計画について話し合いました。

平成28年度も引き続き調査・研究活動を継続し、平成29年度の、資料編2冊（中世編（仮）、近現代写真図録編（仮））の発行に向けた準備を進めていきます。

会議録は、市史編さん室および市公式サイトで公開しています。ぜひ、ご覧ください。



▲第4回羽村市史編さん委員会の様子

第2回地域別聞き取り調査を行いました

2月1日（月）から3日（水）に、川崎・上水通り・本町・東・清流・五ノ神・小作地区の習俗や伝承について、聞き取り調査を行いました。おおむね70歳以上で、この地区で生まれ育った方や結婚してこの地区に住むようになった方など、123人の方に参加していただきました。

昔の写真や資料を持参してくださった方も多く、当時の様子を振り返りながらお話を伺うことができました。

現在は、各分野について、さらに詳しく調べるため、個別に調査を行っています。



▲聞き取り調査の様子



表紙の写真 からかひやま 辛垣山遠望【青梅市 奥多摩橋から撮影】

左奥に見える辛垣山山頂付近に、三田氏最後の砦となった辛垣城がありました。現在も曲輪の痕跡が残り、青梅市の史跡に指定されています。

北条氏照に攻められた三田弾正は、勝沼城から辛垣城へ移り抗戦しますが、防戦むなしく落城します。

右手前のお寺は、三田氏の菩提寺である海禅寺です。

● 中世とは

中世とは、歴史の時代区分で古代と近世の間を示す用語です。日本史の中で中世をどのように考えるかは諸説ありますが、荘園・公領制という土地制度の成立、存続を視点として、古代から中世への転換は11～12世紀頃、近世への転換は、関東地方の場合、後北条氏が滅亡した16世紀末と考えられています。つまり、今から900年ほど前から420年ほど前の約480年間の事です。時代の移り変わる様相については、今後の調査研究で明らかにしていきます。

● 羽村市の中世

では、中世の羽村市域はどのような状況だったのでしょうか。

残念なことに、鎌倉時代の生活の様子を物語る直接的な資料は発見されていません。ただ、多摩川畔、羽加美に鎮座する阿蘇神社に保存されている「木彫狛犬」は、鎌倉時代の初めかそれよりももう少し古い時代の製作とされています。

さらに、阿蘇神社境内からは、室町時代に相当する14世紀中ごろから後半期に製作された本殿の瓦が多数発見されています。また、社殿を造営した際に記録された「棟札」と呼ばれる木札も現存しており、最古のものは「天文五年（1536）」の年号が書かれています。

このころになると、一峰院や禅福寺が創建されたとの記録が残され始めます。一峰院の本尊十一面観音像は室町時代の製作とされています。

阿蘇神社の棟札には、「三田定重」、一峰院の縁起には「三田将定」の名前が見えます。

● 三田氏の支配

これらの資料に見える「三田氏」とは、どんな一族だったのでしょうか。

『青梅市史』などによると、三田氏は、現在の青梅市を中心として、奥多摩町や飯能市、羽村市あたりまでを勢力範囲とした武士集団でした。16世紀半ばごろの関東広範囲にわたる戦乱では関東管領上杉氏に属していましたが、関東一帯を後北条氏が勢力下に納めるとこれに与し、その後再び後北条氏と敵対します。最後は、永禄年間（1560年代）に北条氏照軍によって攻め滅ぼされています。

羽村市の中世の様子も、三田氏の行ったことからわかっていくことが多いのです。

● 三田氏の事業

三田氏は、社寺の造営に熱心だったといわれています。宗家はもとより、その一族もいくつもの社寺を造営し、その一つが阿蘇神社本殿の修理であり一峰院の創建でした。

三田氏が本拠とした青梅市域には、彼らが修理や寄進をした仏像や梵鐘なども残されており、三田氏に関する情報がそれらに記録されています。いわば「履歴書」ともいえるべき記録が書かれていることから、これらを調べることで、三田氏の行いがわかるのです。

いこいの里の裏手の土手際に、石塔類がひっそりと建てられています。その脇の説明板には「伝三田雅楽之助平将定等の墓」とあり、羽村市指定史跡に指定されています。羽村にも三田氏一族の痕跡が残されています。



◀ 伝三田雅楽之助平将定等の墓

● 市史編さんの調査

とはいっても、残された資料の数は青梅市域の社寺が圧倒的に多いので、市史編さん事業では、それらの資料に実際にあたって詳しく調べるため、各所蔵先にご協力をいただき、それぞれの資料を調査しています。さらに、後北条氏やその他の資料も調査を進めていきます。



◀ 調査の様子

部会の手帖



各部会の活動の様子を紹介します。

🔍 用語の解説

かずさ そうぐん

上総層群…関東平野の地下に広がっている数百万年前の地層。羽村市内の多摩川西側の崖や千葉県房総半島では地上で観察できる。



第1部会 ～原始・古代・中世～

三田氏関連資料および地域資料の調査のため、市内の龍珠山一峰院において、三田氏の位牌（三田雅楽之助将定位牌）などの調査を行いました。

また、青梅市の成木山安楽寺、金剛山玉泉寺において、後北条氏関連史料の調査を行いました。これらは、三田氏滅亡後の様子をうかがい知ることができる資料です。

中世石造供養塔調査も引き続き行っており、全点完了まであと少しです。



▲青梅市・安楽寺での史料調査の様子



第2部会 ～近世～

引き続き、市内・市外の双方で近世期の羽村市に関する資料の収集・分析を行っています。

市内では、過去に調査された場所で新出資料の有無を確認し、新たに資料が発見された場合、その資料群の記録・データ化作業を進めています。『羽村町史』や他の自治体調査では確認されていなかった資料も多く発見されています。

市外では、さまざまな大学や図書館で羽村市に関する資料の検索・収集を行っています。



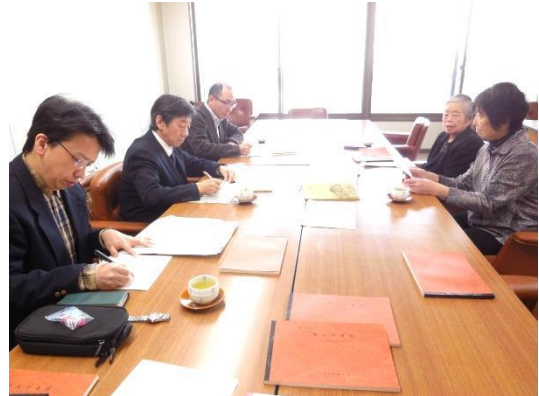
▲市史編さん室での史料整理の様子



第3部会 ～近代・現代～

引き続き近現代の羽村について記録されている資料の閲覧・情報整理を行っています。作業内容としては、郷土博物館収蔵資料の閲覧・新聞記事目録のデータベース作成・行政資料の閲覧・個人が保管する資料の整理・関係機関に保管されている資料の縦覧です。

このほかに旧羽村市婦人会への聞き取り調査を行い、発足の経緯や現在に至るまでのさまざまな活動の実情を伺いました。今後も、市内関係団体への聞き取り調査を継続していきます。



▲旧羽村市婦人会との懇談会の様子



第4部会 ～自然～

気候班は2月の気象観測で、通常の観測に加え早朝の観測も行いました。夜明け前の気温はぐっと下がり、多摩川の土手上に設置した風向風速の観測場所では足元から冷え込みました。今後は、四季を通して市内各所で行った気象観測結果の解析を進めていきます。

地形・地質班は房総半島を訪れ、上総層群の地質調査を行いました。

生態班は引き続き緑地および市街地に生息する生物の情報収集を進めています。



▲早朝の気象観測の様子



第5部会 ～民俗～

昨年8月の地域別聞き取り調査（奈賀・田ノ上・間坂・宮地・美原地区）に続き、2月1日（月）から3日（水）に、川崎・上水通り・本町・東・清流・五ノ神・小作地区の聞き取り調査を行いました。自宅で行った結婚式や葬式の話、各地域のお祭りや暮らしの様子などさまざまな話を伺うことができました。

また、2月3日（水）には個人宅で節分飾りの調査を行いました。他にも、個人宅所蔵の資料調査から、市内の信仰の様子の一部を知ることができました。



▲2月の聞き取り調査の様子

市史編さんの足あと



※①～⑤は部会の数字です。(例) ① ⇒ 第1部会

月	日	できごと
1月	7日(木)	①② 一峰院資料調査
	13日(水)	① 中世石造供養塔調査
	15日(金)	羽村市史編さんだより 第4号発行
	27日(水)	④ 市内礫層調査 ⑤ 郷土博物館収蔵資料調査
2月	1日(月)	⑤ 地域別聞き取り調査(川崎・上～3日(水) 水通り・本町・東・清流・五ノ神・小作地区)
	1日(月)	④ 気温の移動観測・風向風速の観測
	2日(火)	④ 市内礫層調査
	3日(水)	⑤ 年中行事調査(川崎・美原)
	5日(金)	②③⑤ 個人宅(間坂)史料調査
	8日(月)	第4回羽村市史編さん委員会
	9日(火)	③ 郷土研究会会員との懇談

月	日	できごと
2月	12日(金)	④ 市内礫層調査
	22日(月)	⑤ 個別聞き取り調査
	24日(水)	⑤ 個別聞き取り調査
	25日(木)	⑤ 個別聞き取り調査
	26日(金)	⑤ 個人宅(小作)資料調査
	29日(月)	③ 旧婦人会会員との懇談
3月	2日(水)	⑤ 個別聞き取り調査
	3日(木)	① 中世史料調査(青梅市) ⑤ 個別聞き取り調査
	8日(火)	第8回羽村市史編さん本部会議
	10日(木)	⑤ 個別聞き取り調査
	15日(火)	④ 気温観測データ(定点)の回収
	18日(金)	④ 地質調査(千葉県)
	22日(火)	① 資料調査(奥多摩町)
	23日(水)	議会全員協議会への報告
	28日(月)	② 個人宅(五ノ神)史料調査

コラム

ちっとなべえ

サクラも葉桜に変わり、日差しが心地よい季節になりました。羽村ではサクラとチューリップが楽しめる「花と水のまつり」から始まり、町内会の花壇にも花が満ちていきます。新緑がまぶしく花にあふれたこの季節の散歩には、カメラが手放せません。

カメラといえば、現在、市役所の庁舎内に定点カメラを設置し、草花丘陵の静止画を撮影しています。「富士山が笠雲をかぶれば雨」というフレーズを聞いたことはありませんか。このように雲や風などの空模様や動物の行動から、狭い地域の天気を予測することを「観天望気」といいます。

羽村でも草花丘陵にかかる雲や空模様について、その事象を撮影し、天気との関係を調べています。解析はこれからですが、どんな画像が撮れていくのか楽しみです。結果は、羽村の身近な気候の解析に生かしていきます。

第5回 「うららかな春と空模様」

市史の編さんに携わり、羽村の自然はもちろん、人々の暮らしに触れる機会もぐんと増えました。普段は日々の作業に追われ、余裕をなくしがちですが、身近な事象や何気ない暮らしの一コマにちょっとでも目を向ける、そんな余裕を大切にしたいです。(S.K 記)



▲根がらみ前水田のチューリップ畑

※「ちっとなべえ」とは、羽村の昔ことばで「ちょっと、少しばかり」という意味です。